

製品名: インテグリン α 6 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe86732**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、 -20°C で保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:200-1:500
分子量	Calculated MW:127 kDa; Observed MW:127 kDa

抗原情報

遺伝子名	Integrin alpha 6
別名	CD49f, VLA-6; ITGA6B
遺伝子 ID	3655
SwissProt ID	P23229
免疫原	ヒトインテグリン α 6 の合成ペプチド

背景

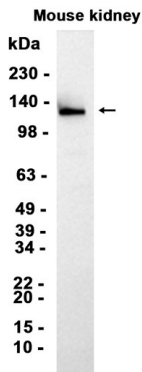
この遺伝子は、インテグリン α 鎖ファミリータンパク質のメンバーをコードしています。インテグリンは、 α 鎖と β 鎖からなるヘテ

ロ二量体の膜貫通タンパク質であり、細胞表面接着とシグナル伝達に機能します。コードされているプレプロタンパク質は、タンパク質分解によって $\alpha 6$ サブユニットを構成する軽鎖と重鎖を生成します。このサブユニットは $\beta 1$ または $\beta 4$ サブユニットと会合してインテグリンを形成し、ラミニンファミリーのメンバーを含む細胞外マトリックスタンパク質と相互作用する可能性があります。 $\alpha 6\beta 4$ インテグリンは腫瘍形成を促進する可能性があり、 $\alpha 6\beta 1$ インテグリンはerbB2/HER2シグナル伝達を負に制御する可能性があります。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じます。[RefSeq提供、2015年10月]

研究分野

-

画像データ



インテグリンアルファ6ウサギモノクローナル抗体を1:1000で使用してマウス腎臓組織抽出物のウエスタンブロット分析。